

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 11 月号 (No.228)

2022 年 11 月 30 日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

「保育への企業参入」から考える事

東京・(福)育和会 飯田由美

今年の夏に、グローバルキッズ COMPANY が運営する保育園における「不正受給」についての報道がありました。私は東京・豊島区の保育園に長く勤務していましたので、豊島区の監査で発覚し、不正を東京都に報告した上で報道されたと知って、衝撃を受けました。不正金額も新たな報道がある度に増えていき、結局、都内認可保育所 11 か所、認証保育所 5 か所で合計 3400 万円の返還命令が下ったとの事です。その内容は保育士の水増し報告との事。これは子どもたちの命に直結する最も悪質な不正であり、保育士の心身の健康を損なう原因になりかねないものでした。心の底から憤りを感じました。

豊島区は、公立保育園の民間委託や保育所増設を行う場合、企業ではなく社会福祉法人を選んでいました。しかし、待機児童解消が最大の目標になった時点で、企業園の導入が始まり、現在は豊島区認可保育園の半数以上が企業立となっています。企業立の園長からは、苦労話を沢山聞き、現場の管理職や職員は子どもたちの為にみんな頑張っているのにな…と感じた事を覚えています。

私は、1999 年から 7 年間、全国福祉保育労働組合東京地方本部の副執行委員長を務めていたこともあり、その頃の事をよく覚えています。ちょうど、東京都の公私格差是正制度廃止が決まり、石原慎太郎氏が都知事に当選して都庁に入ってくるというタイミングでした。都内の民間保育園は公私格差是正制度がなくなるという事で大混乱。その上に 2000 年には厚労省が保育所への企業参入を決定。即、三鷹市立保育所の民間委託を企業が受託しました。国と都が相談していたの

かなと思うような早業でした。その後、「認可保育園の世界をブッ壊す」と、東京都は国基準より低い独自の認証保育所制度を発足させました。第 1 号はお酒の間屋さんだったと思います。社長が「子どもは可愛いけど、商売人は赤字はダメですよ」と言っていた事を覚えています。国では介護保険制度が始まり、当時の首相だった小泉純一郎氏が「最小のコストで最大のサービス」と連呼し、民営化を進めた時代でした。

そのような動きの中で、私たちが失ったものは「基準」だったと思います。そもそも公私格差是正制度は「同じ都民の子どもへの処遇に格差があってはならない。その為には職員の処遇にも格差があってはならない」という、東京の児童福祉に関わる大先輩たちの尊い考えが基本にありました。そのもとで東京都の民間保育所職員の給与表があり、それが民間保育園職員賃金の基準でしたが無くなりました。また、国では企業が参入しやすいように、会計基準も含めて様々な基準を緩和しました。子どもたちを守るためには、高い基準が必要です。

今回のグローバルキッズの不正はそのような背景があつての事件だという事は明らかです。子どもの未来は日本の未来。世界の未来。子どもにかけられるお金をケチる日本政府の考え方は、本田由紀先生ではありませんが、ヤバいです。即刻サヨナラして頂きたいです。

私は、園長職を終了したら、少し楽に暮らしていく事が夢でしたが、保育にかけられる情熱と動ける体があるうちは頑張るか…と、思い直すこの頃です。

主任セミナー2022

職員みんなで保育をつくろう

11月11日（金）第18回主任セミナーが新大阪ワシントンプラザホテルにて、オンラインと会場参加のハイブリッド方式で行われました。

全国25都道府県から約250名（その内会場参加が86名）の参加がありました。現地の大阪で、久しぶりに対面した主任たちが盛り上がっていた姿が印象的でした。



◆どんな自分でも認められる安心感を

午前のシンポジウムのテーマは「職員みんなで保育をつくろう」で、大阪と北海道の報告がありました。

職員の集団作りで努力している話や、職員から「先生の子どもはかわいそう」と言われた話等、若い職員たちと一緒に保育を作る大変さも赤裸々に語られました。

講師の清水玲子先生から、「みなさん、本当に頑張ってる。どうか、自分の頑張りが足りないなんて思わないでね」と話されたことで、参加の主任さんたちはみなさんホッとしたのではないのでしょうか。

先生は、「職場のあり方を考える—誰もが安心して保育できる職場にするために」というテーマで、「今は、人を値踏みする時代。

どんな自分も認められる安心感がないと、本音が出せない。子どもの姿を共有して、一緒に考えていく過程が大事。職場の仲間としての連帯感を」と話されました。

コロナ禍で困難だった、大人同士の関係づくりを取り戻す作業が求められています。

（愛知・岡田寿美代）

◆分散交流会～小グループでの交流時間を確保、笑い声あふれる会場

午後からは午前中の「シンポジウム」を受けて3つのテーマに分かれて分散交流会を開催しました。テーマは、「1 主任の仕事って?」「2 コロナ禍でのコミュニケーションどうしてる?」「3 主任のしんどさ、どこで出す?」の3つです。

テーマごとに、小グループに分かれて交流しましたが、今回は会場での交流会も多く、ZOOM交流会も含めて24グループありました。昨年より少し時間を長くとした交流会が始まると、途端に会場から笑い声が広がりました。

進行担当者の打ち合わせでは「必ず1回は自分の思いを出してもらおう」と話していましたが、皆さん積極的に発言してくださり活発な交流会となりました。Zoom内では画面越しでの交流が進みました。途中でネットが飛んでしまうというハプニングもありましたが、止まっても会話が途切れず皆さん慌てず交流会が進みました。

「うちの園ではこうしているよ」との実践の成功例も失敗例もありのままでの交流が進みました。初めてのテーマ「主任のしんどさどこで出す?」このテーマに興味があり参加してくださった方も多く、日々の思いをたっぷり出し盛況でした。

「次回は是非リアルで会いたいね」の声も

多く、会場参加の方も「来てよかった」「出会いは宝物」との声もあった交流会でした。

(大阪・五藤清子)

◆参加者の感想より

・実践報告がとてもよかった。ヒントがたくさんありました。子育てしながら働くことは保護者の気持ちも理解できるし大変だけれどいいこともたくさんある。みんなの支えの中私も子育てしながら仕事することができました。

・清水さんの話では、自分が・周りが力不足なのではなく、社会の問題として今の状況を考えていくことが大事な視点なのだと学びました。自分にも、周りにもありのままの自分でいいんだ、そういう社会の姿勢が大切なんだと感じました。

・清水玲子さんの「ミスをした提出物が遅れると怒りにつながるのは、個人の責任にしまいがち」な日本の社会に問題がある」という言葉が印象的。

・日常の仕事で疲れてしまうと世の中を見る世界が狭くなってしまいます。今の社会が本当に子どもや、私たち保育士や、人を大事にしているのか、教育や保育の事をどう考えているのかを社会の問題として考えながら、目の前の職員集団と向き合えるようにしたいと思う。

・今年度は、副園長が体調不良で9月末で退職した為、主任にはいつも以上に負担がいつている。なりた管理職の姿を職員には見せられていないので、胸が痛かった。

・少人数でのグループ討議はとても楽しかった。本当は会場に行って直接お話を聞いたり終わってからもっと話したりしたいが、顔をみて同じ悩みを共有できることは泣きそうになるくらいうれしかった。

・運動の大切さは実感しているつもりだが、若い世代には伝えきれていない自分がいる。配置基準ももちろんですが、今までの運動で勝ち取った今の基準を知らせながら、今の現状を変えるには運動が大切という事を発信できたらと思う。

◆記念講演のご案内

「子どものくいのち>を守る保育のために
～組織力と保育の質の向上が

子どものくいのち>を守る」

講師：猪熊弘子さん

(ジャーナリスト／名寄市立大学特命教授、明福寺ルンビニー学園幼稚園・ルンビニー保育園副園長)

記念講演は録画で配信します。そこで、主任セミナー参加者以外の、会員園の皆さんにも研修として活用していただけるようにしました。12月末まで視聴できます。ご活用ください。

1. 経営懇ホームページ

<https://www.hoiku-keieikon.jp/>

「研修会・企画のご案内」をクリック

2. 「2022.11.22 主任セミナー2022 記念講演 猪熊弘子さん(録画)」をクリック

→該当ページから「録画視聴はこちら」をクリック

3. 視聴パスコードを入力して視聴

keieikon@202211

●視聴期間：2022年12月31日迄

※視聴方法がわからない等、メールでお問い合わせ下さい。 gsp10404@nifty.com



←

猪熊弘子さん 著書

『重大事故を防ぐ園づくり』ひとなる書房刊
購入したい方は事務局までご連絡ください。

「最低基準一部改正」省令案のパブコメに意見を！ バス置き去り事故対策を、施設に対する安全管理の徹底強化、 安全装置の設置にとどめず、配置基準改善へつなげよう

厚生労働省は、11月9日に保育所等におけるバス送迎に係る安全確保のためとして「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令案」を示しパブリックコメントを提起しています。

その内容は、バスでの事故防止のために、①施設及び運営の基準に、施設に安全管理の徹底させるための規定を加えるとともに、②送迎バス車内での見落とし防止装置の使用を義務づけるというものです。

安全管理の強化は重要な課題ですが、施設側に、安全管理を徹底する義務を課すだけでなく、そうした課題を遂行するに足る職員体制の確立（すなわち、職員配置基準の改善など増員を図ること）すること、②行政として施設側が実際に対応しているかどうかを確認するために実地監査の徹底すること、などを求める必要があります。

厚労省は、このパブリックコメントの意見の締め切りを12月8日とし、12月下旬に省令を改定し、2023年4月からの施行をめざしています（なお、このパブリックコメントでは、保育所以外に、家庭的保育などの地域型保育事業、児童発達支援事業所、学童保育、認可外保育施設なども対象にしています）。

○省令案（概要）

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000243259>

○意見募集要項

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000243258>

さらに、このパブリックコメントの他に、認定こども園（内閣府）、幼稚園・特別支援学校など（文科省）に対しても、同様の規制をかけるように、各々別のパブリックコメントが提起されています。

意見（案）

- ① 送迎バスの安全確保のために、児童の所在確認を行うことや、安全装置の使用を、施設に義務づけることは必要といえますが、真に安全を確保するには、保育所等の職員配置基準を抜本的に引き上げるなど職員体制の拡充が不可欠です。この点が対策から抜けているのは問題です。早急に基準等を引き上げてください。
- ② 子どもの送迎については、安全確保の面からも慎重に対応すべきです。3歳未満児など幼い子どもの場合はなおさらです。真にやむを得ず送迎を行う場合でも、相応の備えが必要です。行政としてその条件整備について、責任を負う必要があることを明確にしたうえで、条件整備などをすすめるべきです。
- ③ バス送迎時の安全確保のためにも、施設における実施状況を行政として確認する必要があります。自治体における施設に対する指導監査において、実地検査は欠かせません。厚労省は、児童福祉施設に対する実施監査を省略できる規制緩和を実施しようとしています。断固反対です。

逆に、すべての子どもに関わる施設で、実地監査を行うよう、自治体における人員の増員など、監査体制の強化や、関係法令の整備など必要な措置をとるべきです。

以上をもとに、現場の状況なども加味して意見を提出しましょう。**締め切りは、12月8日**です。また、交流のためにぜひ提出した意見を、全保連に寄せてください。

全国保育団体連絡会 FAX03-6265-3230 メール：info@hoiku-zenhoren.org

保育情勢・運動

●3年ぶりの対面集会に800人を超える参加～11.3保育大集会

11月3日、日比谷野外音楽堂で3年ぶりに保育大集会が開催されました。集会には、北海道から福岡まで、各地から800人を超える参加がありました。会員園からも、園長や職員が参加していました。



◆直接集まり体感することが運動の力に

基調報告では、保育の重要性が広く社会に認知され、注目が集まるなかで、現行制度や政策の問題点が明らかになっていることが指摘されました。保育士等の処遇改善など一定の前進もありましたが、国や自治体の施策は不十分で、「子どものために制度・基準の抜本的改善を」という私たちの願いとは大きくかけはなれています。こども家庭庁創設を半年後に控えた今こそ、子どもの権利を最優先に保育・学童保育の抜本的な政策転換を求める運動を大きく広げていくチャンスと訴えました。そのために、引き続き国会請願署名を広げること、配置基準改善の声を各地域・現場から発信すること、自治体に向けて国への意見書採択等を求めることを、今後の課題として取り組んでいこう、と呼びかけました。

各地からの発言では、保育中の重大事故が増える傾向にある中で監査の要件緩和が提起されている問題（保育の重大事故を考えるネットワーク）や、公立保育園の廃止方針の提案をもとに揺れている自治体の状況（東京・小金井市）等の厳しい報告の一方、保育士増員を求めて多くの保育者保護者を巻き込んで運動を広げている報告（愛知）などが報告されました。

集会の最後には、東京の保育の実態を訴えるパフォーマンス（寸劇）、みんなで一緒に歌うコーナー（保育のうたごえ）もあり、みんなでつくる集会を体感することができました。集会後は、パレードも行いました。

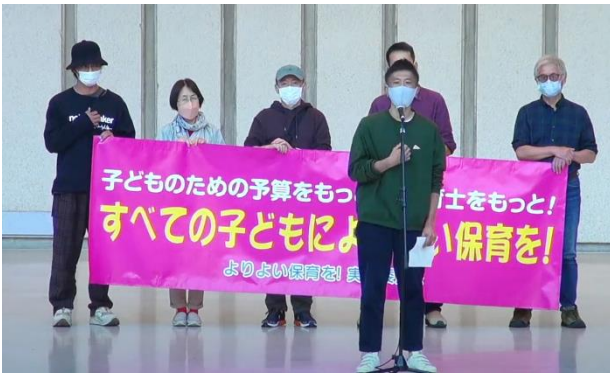
◆園長の立場から発言

保育園の経営・運営に責任を持つ立場からの発言として、経営懇会員園の園長も発言しました。当日の発言内容を紹介します。

こんにちは。私は京都から来ました、若草福祉会西之山保育園の園長の吉岡と申します。今日は京都市の現状を中心に報告します。

基調報告でもありましたように、国は昨年2月から1人9,000円アップし臨時特例事業という形で処遇を上げるようになりました。そして10月からは処遇改善加算というまたややこしい形で処遇を上げるというふうにはなっています。が実際、保育士さんの仕事内容であったり責任を考えると、全く足りないと思います。やはり公定価格をもっと上げないといけない、と感じています。

今、未来の子どもたちを本当に思うのであれば、強いて言えば日本を支えていく子どもたちがより良い環境で育つように、私たち保育士の処遇や保障をもっと改善するべきだと考えています。そんな中、京都市は、コロナの影響で観光税が減っただけの何だのと、理由をつけて今まで京都市が大



切にしていたプール制という補助制度をバツサリとやめてしまい、新しい制度を始めました。この制度のおかげで、ひどいところでは 3000 万の補助金カットになった保育園もあります。このカットによって、保育士さんの給与をカットしなくてはならない状況になっており、本当にひどい制度です。今後、こんな状況で保育園を運営していけるんだろうかと、本当に悩んでいる法人もたくさんあります。

こんなひどい制度を、京都市はコロナ禍という理由で、たった 2 回の Zoom 説明会、これだけで始めたんです。「影響ないと思います」と言いながら、実際には、あるお金でやりくりしてください、自分たちのお金で何とかやってください、ということになっています。本当にひどい制度です。今まで京都市は、日本の中でも保育士の処遇がいい、京都市を見習ってみんなあげていきたいと言われていた、というふうに先輩方から聞いていました。そんな制度を、崩してしまう京都のやり方は、暴挙だと思います。本当に許せません。

ただこんな中でも、保育士さんは、毎日毎日頑張ってくれています。仕事はハード、人は少ない、その上安い給料。それをさらにカットされたら、「もう、私、将来が見えないです」

「子育てしながらやっていくなんて考えられません」と、やめていく保育士さんもいます。本当に悔しいです。

そんな中でも残って頑張ってくれている保育士さん、栄養士さん、調理師さん、看護師さんは、

毎日子どもたちに笑顔で向き合い、お父さんお母さんたちに安心してもらえるように、子どもたちを見守ってくれています。

今後、未来の子どもたちそして、保育士のことを考えるのであれば、一から今の制度を考え直して、日本がより良い子育てができる国になるようやってほしいと思います。京都市も、子育て日本一を掲げながら今は育てにくいけれどもなんとかやってくださいと市長は言い直してほしいなというぐらいひどい制度になっています。未来の子どもたちを考えて制度を守っていくように、国にもそして京都市にもどんどん訴えていきたい、と思います。

未来の子どもたちが笑顔で過ごし、元気ある世の中、安全安心な社会を作れるよう、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

◆世論の後押しが重要な局面に

2 日は国会要請行動を行い、19 都道府県から約 160 名が集まりました。国会の議員会館にある各議員の部屋を訪問し、現場の実態や要望を伝えながら要請し、59 名の議員が紹介議員を了承しました。

議員要請と並行して、厚労省・内閣府との懇談も行いました。

懇談では、特に、配置基準を改善して有資格者を現場に増員できるように求めました。厚労省は予算編成過程のため、来年度予算での改善が見込めるのか等は回答しませんでした。しかし、岸田首相が来年度の骨太方針で子ども関連の予算倍増について示すと期限を区切ったこともあり、財源を確保できる可能性が高まりつつあることを暗に示すような発言もありました。世論の後押しが重要な局面にきている、と言えます。引き続き、いろいろな形で現場の要求を訴えていく必要があります。

全国各地の会員園から その9本

静岡経営懇 集合型とリモートで 学習交流会開催

静岡・ひよこ保育園 村越秀子

静岡経営懇では9月10日(土)、9月12日(日)に浜松市のまつのき保育園を会場に、集合型とリモートで学習交流会を行いました。

9月10日(土)は社会福祉法人新瑞福社会の伊藤洋子さんを講師(リモート)に「一人ひとりをたいせつに 法人運営を考える」と題して、法人が職員を大切にする姿勢や組織づくりを学びました。「一人で解決しようとせず問題を共有することの大切さ」や「職員が大事にされていたからこそ定年を迎えても何らかの形でかわってくれる」などの感想が出されました。

まつのき保育園のホールには法人理事、法人事務、園長が集まり各園の主任と当日参加できない職員はリモートでの参加となりました。昨年はリモートのみでの開催でした。今年度もコロナ禍ではあるものの3年振りに仲間の皆さん



に逢って共通の学びをし、その夜には同じまつのき保育園のホールで豪華なお弁当で黙食での会食。近況報告を兼ねての自己紹介には賛同したり笑いあったり楽しく過ごしました。

二日目は部会ごとの交流会でした。部会ごとに最後に報告し合いました。

① **法人部会**：各法人ともコロナで大変な思いをしていること、職員採用も難しく中堅職員が結婚・出産で退職していく傾向が出ていることなどが話されました。また、今秋、県にアンケートを出すことが決まっています。コロナ禍ではっきりした配置基準の見直しについてまずは現場の職員にアンケートを取り、それらを集約して県に届ける予定です。

② **園長部会**：新しい園長が多かったの
で、園長として心掛けていることを含めての自己紹介をしました。現場に居た時との違いを感じるからこそ、園長が一人で決定せず現場の声を大切にして職員とのコミュニケーションをとっている。また、保護者や地域の人に支えて貰っていることの有難さも感じている。

③ **事務部会**：処遇改善臨時特例手当などについて、各保育園の事務担当の悩みなどを出し合いました。同じ立場として直ぐに相談できる存在にとっても心強く思いました。

④ **主任部会**：リモートでも会場の様子もみられて良かった。皆さんの話を聞いていて「自分だけではない」という思いを聞けて今後
も踏ん張っていけそうです。今後はテーマを決めて主任部会で話ができれば良いと思いました。

⑤ **小規模部会**：連携園や企業でやっている園との連携は難しい。0歳児入園のことや乳児の活動量が少なく体力をつけていくことが課題です。

以上、簡単ですが報告とします。

お知らせ

●第42回経営研究セミナー

第42回経営研究セミナーを、2023年1月9～10日に神戸にて開催します。テーマは、「子どもたちの今が輝く保育・福祉をめざして～保育条件改善と民間保育園の課題～」です。

◆企画内容について

・1日目パネルディスカッション『すべての子どもが大切にされる保育を～「架け橋プログラム」をのりこえる職員集団づくり～』

現場の実態をまじえて、今後の保育に大きく影響する問題を考えます。

・2日目講座・分科会～会計講座と5つの分科会を行います。会員園がホストになり運営しますので、ご協力ください。

・2日目記念講演 小森陽一さん

◆申込締切は12月16日～お早めに申込みを！

●リモート学習会「架け橋プログラムの概要と問題点」(仮)

2023年2月15日13:30～15:30で、架け橋プログラムのリモート学習会を行います。講師は長崎大学の脇信明さんです。詳細は追ってお知らせしますが、ご予約ください。

「学習会開催費補助」を活用して

各地域で学習と交流の場を作りませんか？

経営懇では、各地域での学びと交流の場づくりを支えるために「学習会開催費補助」を行っています。

各地域の経営懇・団体として、学習会を開催する際に、開催経費の不足分を補助します。会員園限定の学習会の場合上限5万円、会員外も対象とする場合は上限7万円の補助を行っています。

終了後に、学習会の内容やとりくみの経過・当日の様子等の報告と、会計報告を提出いただく、という手順です。補助を活用し、学習機会の保障や、会員拡大につなげましょう。

※詳細は経営懇役員か事務局までお問い合わせ下さい。

【経営懇・活動日誌】11月

○11月3日(祝・木)保育大集会。3年ぶりの対面集会に全国から800名を超える参加。経営懇から、京都の園長さんが発言。

○11月7日(月)主任セミナー記念講演の収録をZoomで行う。講師の猪熊さんに保育プラザに来ていただき、セミナー担当者数名が参加。司会は大阪の主任さん。

○11月11日(木)主任セミナー設営。

○11月12日(金)第18回主任セミナー(新大阪ワシントンホテルプラザ)。会場にも約80名が参加し、対面でのセミナーを久しぶりに体感。

○11月14日(月)組織検討プロジェクト会議。

○11月18日(金)経営研究セミナー全体企画のパネルディスカッションに向けてうちあわせ(大宮さん、中西さん、平松さん、役員の小西さん)

○11月21日(月)三役会議。

○11月26日(土)55回合研常任実行委員会。55回合研は開催地実行委員会をつくらず開催するため初めての挑戦となる。

同封資料

①経営研究セミナー案内書

申し込み締切は12月16日です。

お早めにお申し込みください。

②保育研究所研究集会ご案内

2月23～25日に連続講座としてZoomで開催されます。録画配信もありますので、ぜひ、職員・法人にもご紹介ください。

③新聞記事より

11.3集会や各地の運動を受けて、配置基準改善の必要性にふれる報道が増えています。直近の記事を紹介します。